

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH WEEKLY



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：越野 民男 幹事：浅田 豊久

情報委員長：清水 忠

1975・9月4日

第48号

ベルギーの生活体験をおえて

山田 充君



ベルギーへ行って驚ろいたことは、3才の小児にもロックのできる個室が与えられ、若者でもビールや煙草をたのしみ、酩酊にさえならなければ飲酒運転も許されるということだった。

このように徹底した個人主義と自由主義に裏付けられているだけに、私の目には、日本の九州にも満たない小国ベルギーが、世界一美しく豊かに映るのだった。

越野 慶隆君

私のホームステイは国際感覚豊かな貿易商の家庭であった。ところが、そのような人達でも日本人を今尚着物を常用する民族と真面目に考えており、一方私も彼等があまりにもしまり屋でエネルギッシュであることに強い違和感を禁ずることができなかった。

所詮、お互に地球の裏側に住む異国人と笑ってすませることも、半世紀前ならばできたであろう。

しかし、政治・経済・文化などあらゆる人間の営みが国際的次元で交流する現代の我々にとっては、そういった民族間の違和感の解消と相互理解こそ最も肝要である。

微温的な海外旅行ではない、異邦人との人間的接触の機会を得たことは、私の望外の喜びであった。

(金沢北RC例会卓話より一発言順一)

文責 清水忠



私の職業奉仕

吉山 宥海

私は若い時から何でもすると凝る性質がある。中学校はバレーボールに全力を捧げ、二中の黄金時代を作った。大学に入って日曜学校、児童教育などにすべての時間と力をそぎ、NHK及大毎主催の全国学生童話コンクールに優勝する。その為戦時中と言い乍ら、青春に悔なく過した。この10年の学生生活は輝しい若き日の思い出で、多くの友人と生活の糧を作ってくれた。戦後復員をして、早速又バレーチームを作り国体等に出場し、童話を始めて各学校に口演し、県の童文に加わり児童教化に務めた。その当時再び茶道を学び出しそれが何時の間にか、時の流れと共に前者から遠ざかり、今では茶道を専門に凝って今日に至った。近頃では本職（僧職）がどちらか解らぬ位に大半の時間を費している。然し私は常に若い人達、奥さん連中に茶道を通じ又仏教の心をも教える事を忘れてはいないつもりである。

戦後お茶を習い始めた頃、先生に連れだつて小立野にある老人の家を訪ねた。老人は当時70才を超えて、隠居をして戦後のきびしい生活の中で道具らしきものは全く売り尽し僅か他人から貰った茶碗と茶杓等で私達を招いてくれたのであった。八畳の部屋にはタンスや道具が並び、屏風で囲って、丁度茶室と水屋とに区切ってあった。屏風の蔭からごそごと出て老人自ら点前をして一服のお茶を戴いた。お菓子は確か葛もちに砂糖をかけたものでなかったかと思う。縁の向う小さな庭に丁度黄色の蜀葵の花が五、六輪見事に咲いて、夏の太陽をうけて輝いていた。暫くして老人の姿が消えて、さっきの蜀葵の花を切って、おひたし（酢物）にした小さな皿と盃をのせた盆でお酒を戴いたのが忘れ難い印象である。それ以後二度とこんな席に出遭わない。

利休の弟子南坊宗啓が「南坊録」に“家は漏らぬ程、食事は飢えぬ程にて足ることなり、是仏の教、茶の湯の本意なり、水を運び薪をとり、湯をわかし、茶をたてて、仏に供え、人にも施し吾のみ、茶をたて、香をたく、皆に仏祖の行いのめとを学ぶなり”と説く。簡素な生活、仏につかえる敬虔な心ともつことが、茶の湯をたしなむものの忘れてはならぬ心である。

“茶の湯とはたゞ湯をわかし茶をたてて、のむばかりなる事と知るべし”これは利休百首の中の教であるが、今日吾々の最も慎み反省すべきものであろう。茶道も我々の日常生活の中に生かされてこそ真の意味がある。

“茶は服のよきように点じ、炭は湯の沸くように置き、花はその花のように活け、さて夏は涼しく冬は暖かに、降らぬとも傘の用意。招客に心せよ”利休七則の教えはそのまゝ吾々日常生活の規範であるが、なかなか実行は難しい。我達は生涯二度とないこの人生にあつて、より美しくより和やかに、より意義あるために、反省と努力をせねばならぬ。

“喫茶法”とは一杯の茶をのみ、ゆっくり考え明日へ鋭気を養うことこそ現在の最も必要なことでなかろうか。



私のロータリー手帖から（1） 友情のかけ橋

柴田 三郎

“お、ロータリアン”の地区外受注と発送を担当したお蔭で、多くのロータリアンと接触の機会を得て、新しい友情が芽ばえつつあるのはこの上ない収穫となった。

その一人に、神奈川県相模原南RCの桜井太さんがある。桜井さんは内科医、そのクラブは50名内外の中堅どころである。

“お、ロータリアン”が“友”に紹介されると、いち早く申込みがあった。2,000円を同封し、2部送って下さい。残金は貴クラブの快挙に敬意を表しニコニコBOXへ寄投させて欲しい。と、ある。

私は感激して、5部(送料共1,500円)お送りし、500円だけお志を頂戴します。と謝意を表した。

しかるところ、間もなく、逆にお礼状が来て、大変有益であったと喜ばれ、その上同クラブ会員水谷暢宏（のぶひろ）氏作曲の“四つのテスト”のソング楽譜が同封されていた。会場監督の釣見さんをお願いして早速レッスンしているのはご存知の通りである。しゃれたメロデーで、いささかマンネリ化の感ある従来のソングにはさんで活用すれば、テストとソングの一挙両得となろう。

ところが、やがて“お、ロータリアン”50部の注文が舞いこんだ。そして桜井さんの書翰には「本日例会後の理事会に出席し、全会員に読んでもらうよう力説し、承認を得ましたので、本日喜んでこれをお知らせします……」とあった。

私は改めて、桜井さんの情熱と誠実と友情に頭のさがる思いを深めた。尚、ご好意のロータリーソング“四つのテスト”は次の通りであるが、これを口ずさむごとに、遠くて近き相模原南RCを思い浮べることであろう。

四つのテスト

冒行はこれに無らしてから

荘重に、力を込めて

mp

f

f a tempo

1. 真実か どうか
2. みんなに 公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

